

2009年度 医学部入試情報

医学部“大定員増”時代がやってきた！

77 大学で 693 人増加、過去最多の 8,486 人に

旺文社 教育情報センター 平成 21 年 1 月

2009（以下、09）年の医学部医学科の入学定員を 08 年より 693 人増やし、これまでで最多の 8,486 人になると文部科学省が発表し、12 月末に正式に認可された。前年比で 1 割近く増えた“大定員増”について、その内訳（入試方式ごとの割り振りなど）と、09 年医学部入試に与える影響についてお伝えする。

◆医師不足・偏在の解消へ向け方針転換、定員は前年比 9%増

医学部医学科（以下、医学科）の定員は、1986 年当時の医師需給予測に基づき、近年まで抑制される方向にあり、81 年～84 年の 8,280 人をピークに、2007 年までには 7,625 人にまで削減（655 人減）された。

ところが、近年になり医師不足や偏在、それも地域医療や特定診療科（小児科・産科・麻酔科など）の担い手不足が深刻化した。このため、国は定員抑制策を転換。まず 06 年に「新医師確保対策」を策定（医師不足が顕著な特定地域が対象）、07 年には「緊急医師確保対策」を打ち出し「各都府県 5 人増、北海道 15 人増」の定員増を認めた。さらに 08 年 8 月には「経済財政改革の基本方針（骨太の方針）2008」を踏まえ、文部科学省は「地域や診療科の医師確保の観点からの医師養成の推進のための“特例措置”」（以下、特例措置）により、「過去最大規模（81～84 年）程度」にまで定員を増やすことを決定した。

これらを受け、医学科の定員は 08 年に 168 人増加、さらに 09 年は「緊急医師確保対策」「特例措置」を合わせ、国立 42 大学 363 人増（「緊急対策」による編入学定員増を含む）、公立 8 大学 59 人増、私立 27 大学 271 人増（募集人員増を含む）、合計で約 693 人の増員が申請され、12 月 18 日に認可された。前年比で約 9%増える計算になる。編入学を含む総定員は 8,486 人と、過去のピーク時を 206 人上回った。

大学別にみると、1 校あたり「5～10 人増」が多く、岩手医科大・順天堂大の 20 人増が最も多い。一方、昭和大・近畿大では増員がなかった。

◆地域医療や特定診療科への貢献策を各大学で検討

「特例措置」の申請にあたっては、地域の医療機関への定着や、特定診療科の医師養成などへの取り組みの提出が求められ、62 大学が卒業後の一定期間、地域医療に従事する学生への奨学金制度を導入・拡充し、47 大学が地域枠（地元出身者や、その地域への就業希望者を対象とした募集枠）を設けるとしている。また、山形大や大阪医科大などで、

特定診療科（小児科・産婦人科・救急・外科など）のコースを設ける予定など、カリキュラム改革を盛り込む大学も多い。

なお、厚生労働省ではOECD加盟30か国の医師数平均（人口10万人当たり約300人）の達成を目指し（日本は06年で206.3人）、さらに「現行（08年度）の1.5倍の1万2千人程度まで増やすべき」との『中間まとめ』（08年8月）を出している。

◆「一般入試に上乘せ」が多数。地域枠などの本格導入は10年度に

各大学の定員増加数については、p.3以降の一覧表に「定員増①」として6月末までの「緊急医師確保対策」の申請分を、「定員増②」として10月末までの「特例措置」の認可申請分（公立は届出）を掲載した。さらに、受験生が最も気になる、選抜方法ごとの募集人員の変更については、「09年入試の募集人員の変更予定など」欄に募集要項・ホームページ等や本誌の取材で確認できた変更点等を掲載したので、参考にしてほしい。

「緊急医師確保対策」で増えた定員は、出願資格を地元出身者に限定する「地域枠」や、卒業後の一定期間、地元医療機関や特定診療科への勤務を条件に奨学金等を支給する「地域医療枠」に充て、国公立大では主に推薦・AO入試で実施するケースが多い。

一方、「特例措置」で増えた定員は、国公立大・私立大ともに、従来型の一般入試の募集人員に上乘せするケースが目立つ（国公立大は前期が中心）。新たな地域枠や奨学金制度などの本格導入は、来年（2010年）度以降に持ち越された形だ。なお、10年度以降に導入予定の地域枠や奨学金制度などについては、一覧表にその一部を掲載した。

◆国公立医学部は高嶺安定、私立医学部はやや易化か？

“大定員増”によって、一般入試の募集人員が急増する09年医学部入試だが、受験生や高校側の反応は意外に冷静のようだ。医学部進学者の多い高校の先生方に伺うと、「医師としての資質を見極め、志望動機の明確な受験者を送り出す方針なので、定員増で急に出願を促すような指導はしない」「枠が多少広がっても、国公立医学部はセンター試験が9割以上得点できなければ厳しい。“定員増はないものと思え”と指導している」「理工・歯などへ志望変更を考えていた者が初志貫徹する可能性はあるが、少数だろう」とのこと。認可の時期が遅く、受験生への周知期間が短かった影響もあろう。

【国公立大】国公立大医学部の募集人員は、前期が277人増え、センター試験を課す推薦・AO入試も146人増える一方で、後期は28人減少した。

金沢大 - 医学類、長崎大 - 医(医)、大阪市立大 - 医(医)で後期を廃止したため、「前期一本勝負」の色彩が強まり、後期はさらに激戦化する。定員増で倍率がやや緩和されるとはいえ、全体として国公立大医学部はハイレベルの激戦が続く見込み。ただし、群馬大・福井大・山梨大・岐阜大・広島大・愛媛大・佐賀大・大分大の8校の医学科では、後期の募集枠を拡大(計37人増)、貴重な併願先として人気を集めよう。この他、岡山大 - 医(医)、徳島大 - 医(医)では、センター試験の「理科2→3科目」化が敬遠され、志願者大幅減の見込み。一方で、大阪大 - 医は前・後期とも理科を「3→2科目」に軽減、難化は必至だ。

【私立大】私立大医学部の募集人員は、一般入試が254人増える（うちセンター試験利用入試が5人増）一方、推薦入試は13人増に留まった（他に内部進学者の増加等もある）。

定員増の影響は、むしろ私立大の方に強く出そうだ。特に、国公立との併願が多い東京慈恵会医科大・日本医科大・順天堂大・昭和大などの上位校では、最終的な入学手続の段階で国公立大へ多数抜け、補欠合格者が増える可能性があり、玉突きで中堅校以下にまで影響が及びそう。私立大医学部の入試担当者からは「中堅校以下は偏差値が1～2低下するのでは？」との声もあり、全体としてやや易化しそうだ。さらに、「国公立への流出が増えるので、例年以上に歩留まりが読みにくく、補欠合格が増えそう。また、定員超過のリスク（医学部は設置基準上、入学者数は定員を10%以上超過できない）覚悟で合格者を多めに出すかも」との声も。3月末ぎりぎりまであきらめずに待てば、思わぬ合格を勝ち取る可能性も出てきそうだ。なお、東京慈恵会医科大は北里大・昭和大との日程重複が解消したため、志願者大幅増が見込まれる。

◆2009年度 医学部医学科の定員増・募集人員の変更

大学-学部(学科)	定員増① (緊急医師確保)	定員増② (特例措置)	09年入試の募集人員の変更など
北海道大-医(医)		95人→100人	前期80人→85人
旭川医科大-医(医)	90人→97人	97人→102人	①前期20人→35人、後期40人→17人、AO入試(セ試免除)20人→AO北海道地域枠(セ試課す)35人。②前期35人→40人
弘前大-医(医)	90人→95人	95人→100人	①②前期50人→60人(青森県定着枠10人を導入)。セ試課す推薦40人(県内枠30人)→AO入試40人(地域限定。県内枠25人)
東北大-医(医)	100人→105人	105人→110人	①前期90人→95人。②AOⅢ期(セ試課す)10人→15人
秋田大-医(医)	105人→110人		地域枠推薦(セ試課す)5人→10人
山形大-医(医)	110人→115人	115人→120人	①セ試課す推薦25人→30人。②前期70人→75人。特定診療科(小児科・産婦人科・救急医学・外科)の専修コースを新設
筑波大-医学類	95人→100人	100人→103人	①地域枠推薦(5人:セ試免除)を導入。②前期55人→58人
群馬大-医(医)	85人→90人	90人→95人	①セ試免除推薦20人→25人、②後期25人→30人(この他、2年次編入15人を新規募集)
千葉大-医	95人→100人	100人→105人	前期80人→①85人→②90人
東京大-医(医)		100人→108人	理科三類(前期)90人→98人
東京医科歯科大-医(医)		75人→85人	前期65人→75人
新潟大-医(医)	105人→110人	110人→115人	①地域枠推薦5人→10人(セ試課す)。②前期80人→85人
富山大-医(医)	90人→95人	95人→100人	①地域医療枠推薦の「特別枠」(5人)を導入(既に地域枠推薦8人あり)。②前期60人→65人
金沢大-医学類	95人→100人	100人→105人	①前期80人→75人、後期15人を廃止。セ試課す推薦25人を導入、うち地域医療枠(5人)を設定。②前期75人→80人
福井大-医(医)	95人→100人	100人→105人	①地域医療枠推薦の「福井健康推進枠」(5人:セ試課す)を導入(既に地域枠推薦5人あり)。②後期20人→25人
山梨大-医(医)	110人→115人	115人→120人	①地域枠推薦30人→35人(セ試課す)。②後期60人→65人
信州大-医(医)		105人→110人	前期50人→55人
岐阜大-医(医)	90人→95人	95人→100人	①地域枠推薦10人→15人(セ試課す)。②後期35人→40人
浜松医科大-医(医)	95人→100人	100人→105人	①前期55人→60人。推薦(30人)の合格者中、県内勤務者養成の奨学金受給者5人を選考する制度を導入。②前期60人→65人

大学-学部(学科)	定員増① (緊急医師確保)	定員増② (特例措置)	09年入試の募集人員の変更など
名古屋大-医(医)	95人→98人	98人→103人	①後期(3人)を復活(地域医療枠)。②前期85人→90人
三重大-医(医)	110人→115人	115人→120人	①地域枠推薦20人→25人(セ試課す)。②前期70人→75人
滋賀医科大-医(医)	85人→88人	88人→93人	前期65人→①68人→②73人(この他、2年次編入15人→17人)
京成大-医(医)		100人→105人	前期100人→105人
大阪大-医(医)		90人→95人	前期75人→80人
神戸大-医(医)		95人→100人	前期70人→75人
鳥取大-医(医)	75人→80人	80人→85人	①地域医療枠推薦の「特別養成枠」(5人:セ試課す)を導入(既に県内枠5人あり)。②後期20人→25人。2年次編入5人を新規募集
鳥根大-医(医)	85人→90人	90人→95人	①地域医療枠推薦の「緊急医師確保対策枠」(5人:セ試課す)を導入(既に地域枠推薦10人あり)。②前期55人→60人
岡山大-医(医)	95人→100人	100人→105人	①前期80人→85人(地域枠コース5人を新設)。②前期85人→90人(一般枠80人→85人)
広島大-医(医)	100人→105人	105人→110人	①地域枠推薦の「ふるさと枠」(5人:セ試課す)を導入。②後期15人→20人
山口大-医(医)	85人→90人	90人→95人	前期50人→①55人→②60人。セ試課す推薦20人中に「緊急医師確保対策枠」(5人)を新設(既に県内枠10人あり)。
徳島大-医(医)	95人→100人	100人→105人	①地域枠推薦5人→10人(セ試課す)、うち5人を「地域特別枠」として新設。②前期65人→70人
香川大-医(医)	90人→95人	95人→100人	①地域医療枠推薦の「県民医療推進枠」(5人:セ試課す)を導入(既に県内枠10人あり)。②前期45人→50人
愛媛大-医(医)	90人→95人	95人→100人	①地域枠推薦5人→10人(セ試課す)。②後期25人→30人
高知大-医(医)	90人→95人	95人→100人	①地域医療枠推薦10人→15人(セ試課す)。②前期50人→55人。この他、2年次編入5人を新規募集
九州大-医(医)		100人→105人	前期85人→90人
佐賀大-医(医)	95人→97人	97人→100人	①後期18人→20人。②前期50人→53人
長崎大-医(医)	95人→100人		前期60人→85人、後期20人廃止
熊本大-医(医)	100人→105人	105人→110人	①セ試課す推薦10人→15人。②前期75人→80人
大分大-医(医)	85人→90人	90人→95人	①地域枠推薦(5人)を導入(セ試課す)。②後期25人→30人
宮崎大-医(医)	100人→105人		地域枠推薦で奨学金支給対象の「地域特別枠」(5人:セ試課す)を新設(既に地域枠10人あり)
鹿児島大-医(医)	85人→90人	90人→95人	①地域枠推薦2人→7人(セ試課す)。②前期60人→65人
琉球大-医(医)	95人→97人	97人→102人	①地域枠推薦(セ試課す:2人。奨学金あり)を導入。②特別枠推薦(セ試課す:5人)を導入。2年次編入5人を新規募集
◇札幌医科大-医	105人→108人	108人→110人	特別推薦(道内対象:地域医療枠/セ試課す)10人→①13人→②15人
◇福島県立医科大-医		95人→100人	セ試課す推薦25人→30人(県内枠20人→23人、県外枠5人→7人)
◇横浜市立大-医(医)	80人→85人	85人→90人	①前期80人→85人(「指定診療科枠」<5人>を新設。奨学金を支給)。②前期85人→90人(地域医療枠20人→25人)
◇名古屋市立大-医	80人→82人	82人→92人	①地域枠推薦(2人:セ試課す)を導入。②前期70人→80人
◇京都府立医科大-医(医)		103人→105人	地域枠推薦3人→5人(セ試課す)
◇大阪市立大-医(医)		80人→90人	後期20人を廃止、前期60人→80人→②90人
◇奈良県立医科大-医(医)		100人→105人	後期<地域枠>10人→15人
◇和歌山県立医科大-医(医)		85人→95人	前期<一般枠>44人→54人

大学-学部(学科)	定員増① (緊急医師確保)	定員増② (特例措置)	09年入試の募集人員の変更など
☆岩手医科大-医	90人→95人	95人→110人	①地域枠推薦10人→15人。②一般入試60人→75人
☆自治医科大-医	110人→113人		一般入試110人→113人、栃木県枠を増員(3人増)
☆獨協医科大-医		100人→110人	一般入試50人→60人、地域医療枠(栃木・群馬・茨城・埼玉4県を対象)を新設
☆埼玉医科大-医		100人→110人	一般前期55人→60人、一般後期35人→40人
☆北里大-医		100人→110人	一般入試75人→85人
☆杏林大-医		90人→105人	一般入試69人→79人、セ試利用入試20人→25人
☆慶應義塾大-医		100人→110人	一般入試60人→66人(他に内部進学4人増)
☆順天堂大-医	90人→95人	95人→110人	①一般入試に「東京都地域枠入試」を新設(5人)。②一般前期65人→80人、「静岡・千葉・埼玉地域枠」を新設
☆帝京大-医		100人→110人	一般入試90人→100人。2010年度から特別入学生枠(千葉県など6県を対象)を新設予定
☆東海大-医		100人→110人	一般A方式40人→50人
☆東京医科大-医		*110人→113人	定員は120人で変わらず、今年度は推薦合格者を3人増。2010年度以降に地域枠(茨城県が対象)を新設予定
☆東京慈恵会医科大-医(医)		100人→105人	一般入試100人→105人。2010年度から特別枠(地方出身者対象:10人)を新設予定
☆東京女子医科大-医		100人→110人	一般入試70人→80人
☆東邦大-医(医)		100人→110人	一般入試100人→110人
☆日本大-医		*110人→120人	定員は120人で変わらず。一般入試92人→102人
☆日本医科大-医		100人→110人	一般入試100人→110人
☆聖マリアンナ医科大-医		100人→110人	一般入試85人→95人
☆金沢医科大-医		100人→110人	一般入試60人→70人。特別奨学金制度(同校病院勤務が条件)の対象者を3人→10人に増員
☆愛知医科大-医		100人→105人	一般入試65人→70人
☆藤田保健衛生大-医		100人→110人	一般入試65人→75人
☆大阪医科大-医		100人→110人	一般前期85人→90人、一般後期10人→15人
☆関西医科大-医		100人→110人	一般入試80人→90人。うち、特別枠「医師不足地域・診療科枠」(10人)を新設(一般枠80人との併願可)
☆兵庫医科大-医	100人→102人	102人→110人	一般入試85人→①87人(兵庫県推薦入学制度3人→5人)→②95人
☆川崎医科大-医		100人→110人	一般入試60人→70人。2010年度に特別推薦(地域枠)を増員予定
☆久留米大-医(医)		100人→110人	一般入試90人→100人
☆産業医科大-医		*95人→105人	定員100人→105人。一般入試75人→85人
☆福岡大-医(医)		100人→110人	推薦入試25人→30人(終了済)、一般入試75人→80人

(注1)◇は公立、☆は私立。定員増は原則として編入学定員を除き、国公私立とも文部科学省発表による。

(注2)定員①(緊急医師確保対策)については、山梨大・大分大は2016年度まで、他は2022年度までの増員。

(注3)「定員増①」欄は6月末までの申請分(緊急医師確保対策)、「定員増②」欄は10月末までの申請分(特例措置)。

(注4)私立大(東京医科大・日本大・産業医科大)の「定員増②」欄の*は、募集人員の増加を示す。

(注5)2009年度で定員増をしないのは、昭和大-医、近畿大-医の2大学2学部。